

公民館報

坂城

令和元年

2019.9.20

No.390

発行／坂城町公民館 発行人／清水 守 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



❖主な内容❖

ふるさと探訪PART1052～4 P
分館役員研修会、川の学校、納涼音楽会開催.....5 P
第64回成人式、500字リレートーク6～7 P
お知らせ、館説 開畝8 P

さかきふれあい大学

美しいグラスハープの音世界

9月7日（土）、日本で唯一の存在といえるグラスハーピスト・大橋エリさんによる演奏会が文化センター大会議室にて開催されました。

美しい音色に大勢の皆さんが魅了されていました。

千曲川に棲む鳥たち②「親鳥が雛に運ぶ食物」



ふるさと探訪は、千曲川の鳥についてシリーズで掲載します。
寄稿者は、笠原里恵さんです。

文責 笠原 里恵 (かさはら さとえ)

長野県生まれ。信州大学大学院教育学研究科に進学してから20年近く、千曲川に生息する鳥類の生態について研究を続けている。2019年4月より、信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所に所属。今後は諏訪湖を中心に湖沼の鳥も研究していく予定。

○鳥たちの子育て

繁殖は、子孫を残すための生活史の中でも、特に重要なイベントの一つである。巣内で育雛を行う鳥では、多くの場合、雛は卵から孵ったとき、ほとんど羽毛も生えておらず、目も開いていないが、親鳥が巣の縁に留まったことを感じると、一斉に頭を持ち上げ、口を大きくあけて食べ物をねだる(写真1左)。

鳥の雛が孵化して巣立つまでの期間は短い。例えばオオヨシキリやモズでは孵化後約二週間で巣立つが、その間に、数グラムだった体重は二十グラムを超えるほどに増え、羽毛も生えそろって翼も飛ぶ準備が出来上がる(写真1右)。短期間で成長する必要があるため、雛の食欲はとても旺盛で、その成長につれて親鳥が雛に食物を運ぶ回数は増加していく。海外の研究では、巣立ち時の

体重が重い雛の方がその後の生存率が高いことが指摘されており、雛のために一日に何百回と食物を運ぶこともある親鳥にとって、食物として利用できる生物の種類や量の豊富さは、彼らの子育てにとって重要な意味を持つ。今回は、千曲川で繁殖している鳥たちが子育てにどんな食物を利用しているのかについてお話しする。



写真1 オオヨシキリの孵化まもない雛(左)と巣立ち間近の雛(右)

繁殖するには、種間で資源をめぐる競争が生じないよう、いろいろな方法で棲み分けていると考えられる。そこで、2005年と2006年に、坂城町に位置する鼠橋上流から千曲市に位置する栗佐橋下流の範囲で、両種の食物調査を行った。五月か

○魚食性鳥類の食べ分け、カワセミとヤマセミ

千曲川で繁殖するカワセミとヤマセミは、両種とも土の崖に奥行きのある横穴を掘って営巣し、魚を主食とする。くちばしの形状も類似しており、水の中に飛び込んで魚を捕らえる採食生態も共通している(写真2)。

一般に、このように似た生態をもつ複数の種が同じ地域で同じ時期に繁殖するには、種間で資源をめぐる競争が生じないよう、いろいろな方法で棲み分けていると考えられる。そこで、2005年と2006年に、坂城町に位置する鼠橋上流から千曲市に位置する栗佐橋下流の範囲で、両種の食物調査を行った。五月か



写真2 カマツカを運ぶカワセミ(左)とウグイを運ぶヤマセミ(右)

また、ドジョウも相対的に多く利用されていた。ヤマセミで最も利用されたのはウグイ、次いでオイカワであった。この両種に共通して利用されたオイカワとウグイは、当時の千曲川の優占魚種であり、このことは、

日々大きく成長し、要求量の増す雛たちに十分な食物を与えるには、魚種を選ぶよりも、たくさんいる魚種を捕らえる方が効率が良いことを示唆している。

ではなぜ、カワセミはオイカワを、ヤマセミはウグイをより好んで利用したのだろうか？

録画映像の魚の体長と、それをくわえている親鳥のくちばしの長さを比較したところ、運ばれてくる魚の大きさは、体の大きいヤマセミでより大きいことがわかった。オイカワよりもウグイは体長が大きくなること、そして二種の体格差を思えば、食物の違いは種間の競争で生じたというよりは、体の大きさの違いを反

映していると考えるのが妥当であろう。

利用する魚種の種間での違いはまた、採食場所の違いをも示唆している。カワセミが運んできたオイカワやドジョウなどの小さな魚類は、一般に河川の岸近くの浅水域や流れの緩やかな場所、止水域などに生息する。一方で、ヤマセミの運んできたウグイはおもに河川の水深の深い部分に生息する。

このような種間での食物や利用場所の違いと、両種が必要とする資源を提供できる千曲川の自然環境が、生態の似た二種の共存を可能にしていると思われる。

○過去と現在で変化したカワセミの食物内容

私が調査を行った頃にはほとんど見られなかった魚が、近年千曲川でその数を増やしている。それがコクチバスである（写真3）。コクチバスはオオクチバスとあわせてブラックバスとも呼ばれる。水生昆虫から

魚類まで様々な食物を利用するが、体長が大きくなると、食物に魚類の占める割合が高くなることがわかっており、ブラックバスの侵入によって、一部の魚類の個体数が大きく減少する可能性も指摘されている。そして千曲川でも、コクチバスの侵入により、生息する魚の種数や多さが変化していると考えられている。

最初に述べたように、鳥類の食物内容は利用できる食物の多さに大きく影響を受けるため、河川での魚類相や豊富さの変化は、そこで繁殖するカワセミとヤマ

セミの食物内容に影響すると考えられた。そこで2017年に、過去と同じ調査範囲で同じ方法を用いて食物内容を調査した。

しかし、その年、ヤマセミの繁殖は残念ながら確認できなかった。そこで、カワセミのみで過去との比較を行った結果、約十年の歳月を経て、食物内容に大きな変化が生じていることが分かった。

カワセミの食物に占めるオイカワの割合は過去の半分以下に減少し、ウグイはほとんど確認できなかった。その一方で、ドジョウやアメリカザリガニなどの甲殻類が大きく増加していた。

面白いことに、録画映像からは、千曲川で増加しているはずのコクチバスがカワセミに運ばれている様子は、ほぼ確認できなかった。食物は種類よりも量が重要と思っていたカワセミだが、コクチバスは嫌いなのだろうか？その後の調査

で、たまたま千曲川の瀬に設置していた自動撮影カメラに、カワセミがコクチバスの幼魚と思われる魚をくわえているのが写っているのを見つけた。時期は八月上旬、ほぼ繁殖も終了した頃であった。断片的な情報ではあるが、カワセミはコクチバスが嫌いで利用しないわけではなく、繁殖時期にはなんらかの理由で利用できないのではないかと考えられる。

その理由については、例えばカワセミが雛に運べる食物の大きさや魚の年間の生活史から推測できるかもしれない。ここでは詳細を省くが、カワセミにとって、子育てのために最も食物が必要な時期に、コクチバスが食物として利用できないのであれば、特に体長の大 きなコクチバスの個体が河川で増加して、オイカワやウグイを減少させた場合、それはそのままカワセミが利用できる食物の減少につながる。すなわち、コク



写真3 コクチバス（北野聡撮影）

チバスの存在や増加は、カワセミの繁殖に負の影響を与えることが懸念されるのだ。

○営巣場所や季節によって

食物が変わるオオヨシキリ

千曲川に、四月下旬に渡来する渡り鳥であるオオヨシキリは、ヨシやオギなどの背の高い草本の茎に枯れ草を巻きつけて巣を造る。水辺から林縁近くまで広い範囲で繁殖し、子育ての時期は主に五月中旬から七月下旬で、雛に与える食物の大部分は昆虫類である。

オオヨシキリは、雄が雌よりも先に渡来して縄張り

をもち、雌は複数の雄のなわばりを訪ねながら、どの雄の奥さんになるかを決める。このとき、より魅力的な雄は複数の奥さんを得て、一夫多妻となり、結果として、たくさんの子孫を残すことができる。「魅力的」な雄の条件としては、早く渡来する、体が大きい、質の良い縄張りをもつ、などが知られている。確かに、

早く渡来すれば、競争相手の少ない状態でいいなわばり、例えば、捕食者に巣が見つかりにくい場所や雛を育てるための食物を十分確保できる場所を得ることができるかもしれない。しかし、夏の夜に街灯などの光源をみれば分かるように、食物となる昆虫の量が多そうな七月に比べ、長野県の五月はまだまだ涼しく、食物が少ない時期のようにも思われる。

では、早い時期に繁殖するオオヨシキリたちは、一体何を雛に与えているのだろうか？

2015年の繁殖期に、坂城町に位置する大望橋周辺でオオヨシキリの食物内容を調査した。大望橋周辺には、ヨシとオギが混在しながら広範囲に群落を作っている。その背の高い草の中を延々と歩き回りながら、発見した巣に対して、ビデオカメラで撮影を行った(写真4)。

四十四巣の撮影結果か



写真 4. 雛に食物(左:カタツムリ、右:ヒゲナガカワトビケラ)を運ぶオオヨシキリ

るが、時期や巣の場所によって利用する生物は大きく異なっていることが明らかになった。

時期に着目してみると、早い時期に育雛をしている巣は、雛に運ばれた食物に占める水生生物の割合が高く、遅い時期に育雛をしている巣では、陸生生物の占める割合が相対的に高かった。また同時に、水生昆虫生物を利用する割合が高かった巣は、水辺に近い場所にあり、早い時期に子育てが行われていることも分かった。

つまり、オオヨシキリは陸生生物のまだ少ない五月には、水辺に巣を造り、水生生物を利用しながら、子育てをしていたのだ。

もちろん、水辺で繁殖をしたとしても、そこが水生生物の生息できないような

水辺であれば、子育てが厳しくなるのは目に見えている。

つまり、オオヨシキリの繁殖には、造巣可能で捕食されにくい水辺のヨシ群落と、そこに生息する水生生物の豊かさとの両方が重要であるといえるだろう。

○鳥に配慮した調査

今回、ビデオカメラを用いた鳥類の食物調査についてお話ししたが、巣に近づく必要が生じる調査には、つねに鳥への配慮が求められる。繁殖期は、無防備な卵や雛はもちろん、巣を守る親鳥も捕食の危険にさらされるため、親鳥はとても神経質になりやすい。

いたずらに巣の周辺を踏み荒らして捕食者に巣に至る道に気づかれてしまうことや、不用意に巣に近づいて人間の気配に親鳥が巣を捨ててしまうことのないように、慎重に調査を進める必要がある。

笠原 里恵

分館役員研修会開催

6月20日(木)、地域の特性を活かし、分館相互の情報交換を通して、明るく住みよい地域コミュニティづくりを推進するための分館役員研修会を開催しました。

今年度は健康アドバイザーで、ヨーガ療法士の青木芽里さんを講師に「心とカラダの元氣をつくる」公民館活動で活用するために「」についての研修会を行いました。

当日は、分館長さんをはじめ、大勢の分館役員さん約80名が参加されました。体育館で実際に体を動かして、日頃の運動不足を少しでも解消し、今後の分館活動の推進に役立ててもらえるような研修会になりました。



川の学校開催

6月29日(土)30日(日)、さかきふれあい大学「川の学校」が開催されました。

小学生12人、保護者9人の参加があり、講師の後藤敏一さん、正一さんにご指導いただき、初日に川原のごみ拾いや仕掛けをつくり、翌朝早くに引き上げるとニジマスやナマズなどがかかっていました。

地域の自然にふれあいながら、千曲川で船に乗ったり、魚の学習や漁を体験し、川遊びのマナー等を学ぶ楽しい二日間でした。



納涼音楽会開催

今年も納涼音楽会を、坂城音楽愛好会と町公民館の共催で7月6日(土)に開催しました。

41回目の開催となり、3小学校、坂城高校、南条小学校吉池先生のソプラノ独唱等、計11団体の参加があり、日頃の練習の成果を発表しました。



童謡・唱歌を楽しむ会



南条小「南条ハッピープラス」

新成人おめでとう

第64回坂城町成人式開催

8月15日（木）坂城町成人式を開催しました。今年の成人式該当者は、平成10年4月2日から平成11年4月1日生れで136名です。

記念式典に続いて、成人式実行委員会の企画運営による成人祭が行われ、恩師からのお祝いの言葉やレクリエーションで盛り上がりしました。

新成人のみなさんのますますのご活躍とご多幸をお祈りします。

成人のことば

渋澤 将希



本日は私たち新成人のため
に山村町長ならびに多くのご
来賓の皆様のご臨席のもと、
このような素晴らしい成人式
を開催していただき誠にあり
がとうございます。ご臨席の
先生方をはじめ家族や地域の
皆様方など多くの方々の支え
の中で成長し二十歳を迎え、
今、新成人としてこの成人式
に参加できることに大きな喜
びを感じています。小学生か
ら中学生という幼少期から思
春期の濃い時間を共に過ごし
た同級生や先生方と、この節
目の年に再び一堂に会するこ
の体験は、私たちの人生にま
た一つ、彩を加えることにな
るでしょう。

中学を卒業してからの五年

間で各々がそれぞれの進路に
進み様々なことを経験してき
たかと思っています。私自身は選
択の岐路でネガティブになり
悩むことも多かったのですが、
思春期を経て悩み選択する中
で以前より落ち着いて物事を
考えられるようになったと思
います。私が年齢を重ねるこ
とによる落ち着きを感じた
きっかけは、去年私が些細な
ことで落ち込んでいたときに、
ある人に「君はいつも勝手に
自分で自分を責めて自滅して
いるだけだ。」といわれた時で
した。似たような言葉を今ま
でいろんな人に言われてきた
ような気がしますが、その時
の私にはとても衝撃的だった
ので、素直にその言葉を受け
入れることができました。そ
れ以降は暗い気持ちに長い時
間とらわれることが少なくな
りました。そしてこの経験か
らばくは「他にも以前の自分
なら受け入れられなかったけ
れど、今の自分なら受け入
れられる言葉や考え方はいく
らでもある」と思いました。

初めにも言ったように私たち



恩師の先生方



成人式記念式典

は多くの人の支えの中で成長してきました。多くの言葉を様々な場面で受けてきたと思います。言われた当時は腑に落ちなかったり反発していたかもしれませんが、今思い返してみると自分の本質をついた、ためになる言葉も多いのではないのでしょうか。このような観点で見ると十人十色の進路をとった分、私たちの二十年間は私たちのこれからを支える言葉にあふれた宝の山なのかもしれません。そんな前向きな気持ちで過去の思い出を振り返りつつ、これからも感謝の気持ちを忘れず頑張りたいと思います。

以上をもちまして成人の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



実行委員（後列）とTシャツを当てた成人者（前列）

成人式実行委員

野口 拓馬さん
（実行委員長）
柳澤 瑛恵さん
（副実行委員長）
助川 由衣さん
堀内 琳さん
小宮山 岬さん
酒井 詩帆さん
柳沢 恵斗さん
洪澤 将希さん



成人祭のスタート“乾杯”

500字リレートーク 衝撃の 社会人デビュー

坂城中学校
濱野 まりな

坂城中学校の教員として働き始めて半年が経ちます。数か月前まで怠惰な大學生生活を送っていた私にとって、社会人デビューは衝撃の連続でした。

まず、坂城町とはどこ？ということです。安曇野市出身の私は、坂城町ってどこ？実家から通える場所？と疑問だらけでした。今は近くにアパートを借りて生活しています。どこにあるのかも知らなかった坂城町でしたが、今ではねずこんグッズを買いあさり、車にはねずこんのステッカーを貼るほどに坂城町に染まってきています。

また、学級担任と部活の顧問になったことも衝撃的でした。新卒の初任者が学級担任になることはないだろうと勝手に思っていたので、初出勤の日に私の机上

に学級日誌が見えた瞬間はぞっとしました。また、小学四年生からソフトテニスをやってきたので、テニス部の顧問になれたらいいなと思っていましたが、まさかの顧問を任せられました。学級づくりも部活動の指導も難しいですが、子どもたちと過ごす日々はとても楽しいです。二期も毎日元気に笑顔で過ごしたいと思っています。

坂城町の一員として、どんなことにも『鉄の根性』で挑み、子どもたちと共に成長する教員でありたいと思います。

次は荒井陽花さんです。



2年2組の授業風景

さかきふれあい大学教養講座

華やかな木管四重奏コンサートもっかる
温かな響き～木管四重奏の世界～

4 種の木管楽器で構成された、華やかな木管四重奏コンサートです。ロビーコンサートやパーティーでの演奏の他、CM やアーティスト CD のレコーディングなど、活躍中の女性ユニット。クラシックや映画音楽からポップスまで幅広いレパートリーで、心に響く木管楽器の世界をお届けします。

日 時 10月26日(土)

開場:午後1時30分 開演:午後2時

会 場 坂城町文化センター
大会議室

出 演 女性ユニット
もっかる-mocqual
(フルート) 萩原可奈さん
(オーボエ) 和光美苗さん
(クラリネット) 宮田愛子さん
(ファゴット) 山村真実さん



ライフ・ステージエコー2020
世界の檜舞台で響いた歌声

日 時 1月11日(土)

開場:午後1時30分 開演:午後2時

会 場 坂城テクノセンター

チケット 一般1,300円、小・中学生700円
11月5日(火)から発売開始

販売先 実行委員又は教育文化課生涯学習係
(文化センター2階)

出 演 東京オペラザプリステン(声楽アンサンブル)

大澤 建さん
伊左次美江さん
伴 真純さん
絹川 文仁さん
ピアノ
清水 良枝さん



※当日券は一般 1,600 円、小・中学生 800 円で販売予定ですが、数に限りがございますので、チケットは早めにご購入ください。

作家 酒本 歩^{あゆむ}さんを囲んで

日 時 11月30日(土)

午後2時～3時30分

会 場 町立図書館
2階集会室

講 師 酒本 歩さん
(本名: 和田剛浩)



小説家デビューした坂城町出身の酒本歩さんをお迎えして、図書館長がお話をうかがいます。「幻の彼女」を執筆して出版されるまで、影響を受けた作家や作品、デビュー2作目は? いろいろな話をお聞きしたいと思います。終了後は、サイン会があります。

今後の行事予定

《秋の行事》

- ◆町民運動会 10月6日(日) ◆町文化祭
- ◆青少年健全育成交流会 10月26日(土)
- ウォークラリー大会 10月19日(土) 27日(日)

《冬の行事》

- ◆スケート教室 (対象:小学校4年生～中学生) 1月4日(土)～6日(月)
- 11月9日(土) ◆分館対抗球技大会
- ◆スポーツ少年団交流大会 2月23日(日)
- 12月8日(日) ◆子ども茶の湯教室
- ◆元旦マラソン(誰でも参加OK) 3月7日(土)
- 1月1日(元日・水) ◆坂城町囲碁大会
- ◆スキー・スノーボード教室 3月15日(日)
- (対象:小学校4年生以上) ◆坂城町将棋大会
- 1月19日(日) 3月22日(日)

生活改善で葬儀、婚儀をする場合の案内状に同封する通知文は文化センターにあります。ご利用ください。

葬儀・・・香典1,000円、法事3,000円 香典返しは半返し以内で。花輪は辞退しましょう。近親者はこの限りではありません。
婚儀・・・祝儀(会費)3,000円 引き出物、記念品を出さない。近親者はこの限りではありません。

説 館
開 斎
敏

今年度の新しい公民館文化講座『植物散策』に十名の皆さんに受講していただいています。

長野県自然観察インストラクターの霜田芳武先生に講師をお願いし、坂城町を巡り、植物の名前から始まり、その由来や人の生活とのかかわり、似た植物との見分け方などについて、五感を通して楽しく学んでいきます。普段一人だと見逃して行ってしまうような場所でも、先生からの説明や受講者の気づきによって、足を止めてさまざまな発見と感動を共有できるのがこの講座のよさと感じています。

八月の講座で、ある場所へ行つたとき、そこで県の絶滅危惧種指定になっているウマノスズクサや、それを食草としているジャコウアゲハの成虫を見ることができました。

その場所には、ウマノスズクサを保護するため、文化財センターの青木所長さんと中山島前公民館長さんが、その植物を採らないようお願いする札を取り付けていただいていた。また、地域の方も協力してくださり、草刈りのときに気をつけていただいていた。ということを知りました。

希少価値の植物を見ることができたこともそうですが、それにかかわる人々の努力に触れることができ、私にとって坂城町の素晴らしい再発見になりました。